

南相馬の授業スタイル

(ワンペーパー版)

南相馬市学校教育指導委員会

南相馬市学校教育指導委員会では、南相馬の授業スタイル・授業スタイルⅡの冊子を作成し、小・中学校すべての学年や教科で共通した授業スタイルの実践による学力向上策に取り組んできました。

各小・中学校において共通の授業スタイルが定着しつつあるところですが、本市で目指す思考・発信型の授業イメージを、先生方とより一層共有する必要があると考え、授業スタイルのワンペーパー版を作成しました。先生方には、以下の4つのポイントをふまえた「学んだことをつかう授業」、及び先生のファシリテーション（つなぎ役となること）の向上による「子どもが主役の授業」をさらに推進していただき、子どもたちの基礎学力の定着と活用力（思考力・判断力・表現力）の向上に取り組んでいきましょう。

1 4つのポイントをふまえた「学んだことをつかう授業」展開例

4つのポイント

先生のファシリテーション例

1 課題提示

- 【約10分】…探究心につなぐ課題提示
- 学ぶ必要感の高い学習課題の設定
 - ・児童生徒が「？」や「〇〇したい！」と感じる提示
 - 考えのズレを引き出す問いかけ、提示
 - ・適度な予想、見通しを持たせる課題・めあての設定



- 日常生活の例示
- 実物の提示、ICT活用
- 既習事項の活用
- 「できる、できる、あれっ？」
- 反転学習の導入

2 学び合い

- 【約20～25分】…互いの考えをつなぐ協働的な学び合い
- 考えを広げたり・深めたりする学び合い活動の設定

展開例

自力解決



試行錯誤

ペア学習、グループ学習



全体での発表



既習の学習事項の活用

双方向の対話

多様な考え方に触れる

- 開いた発問・ゆさぶり
- 考えの見取り、コーチング
- 学び合いの習慣化
- 協働的・共感的な学級づくり



3 まとめ

- 【約5分】…本時の学びにつなぐ・共有するまとめ
- 学習活動と教科の見方・考え方をつなげるまとめの設定
 - ・全体発表の意見や考えを使って端的にまとめる。
 - ・わかった！できた！の実感を引き出す。



- 意図的な指名
- 板書を使った振り返り
- 本時のねらいに合わせたまとめ
- わかったこと・できたことを学級全体で共有

4 振り返り

- 【約10分】…深い学びにつなぐ振り返り
- 「学んだことをつかう」振り返りの学習の設定
 - ・解く振り返り＝適用問題で、学びの定着へ
 - ・書く振り返り＝じっくり書かせて、深い学びへ
 - 家庭学習につなげて定着度UP！



- 個別最適化された適用問題
- ドリルアプリの活用
- 考えを深めさせる発問（書く振り返り）
- T・T、習熟度別指導

2 先生のファシリテーションの向上

「子どもが主役の授業」の充実には、**先生のファシリテーション（つなぎ役となること）**が重要です。

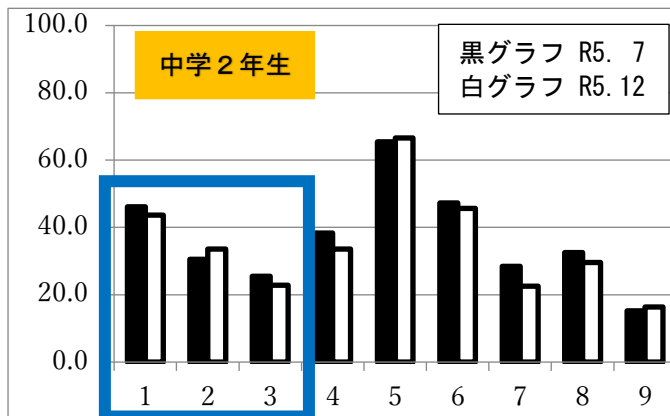
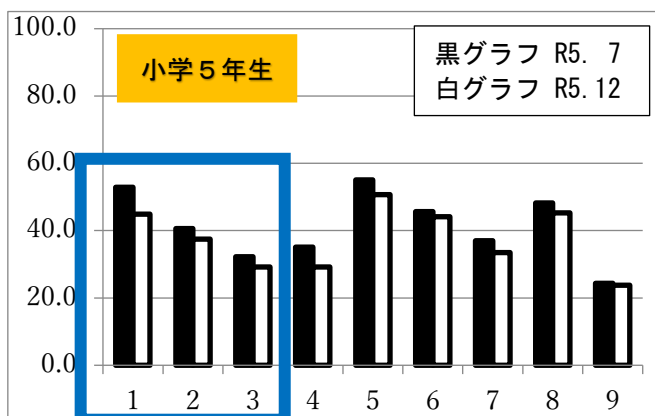
※ ファシリテーションとは、「促進する」を語源とし、「受け止める・つなぐ・引き出す・整理する・まとめる・分かち合う」等、先生がつなぎ役となって子どもたちの思考や学びを促すことを意味します。

先生のファシリテーション例を参考に、先生はつなぎ役に徹し、子どもたちの思考力・判断力・表現力を引き出す「子どもが主役の授業」を実践しましょう。



「対話」を通して協働的に考えを広げ、深める授業を！

7月と12月の「9つの課題アンケート」の結果です。小中学生ともに、「話し合う活動」は4～5割、「自分の考えを話すこと」は3～4割、「説明や発表」は2～3割の児童生徒は頑張っているとの回答です。話すことが得意・不得意はありますが、話し合いには聴くことも大切ですし、自分の考えが言い合える教室であることも大事です。子どもの考えを引き出し、たくさんの「対話」を通して、子どもが主役の授業をつくっていきましょう。



- 話し合う活動をよく行っている。
- 資料を読み取り、自分の考えを話したり書いたりしている。
- 自分の考えを説明したり、発表したりすることが多い。
- 書いてまとめる
- めあてとまとめを書く
- 学習内容のふり返り
- 計画的な家庭学習
- 読書活動
- ほめる・認める・励ます

設問1・2・3が話し合い、学び合い＝協働学習項目です。話し合い、学び合いのベースとなるのが「対話」です。



1 双方向の「対話」にあふれた教室をつくりましょう！

対話のはじまり「あ・い・う・え・お」

あ、なるほど！ いねえ！ うーん、そうかな？
えっ、どういうこと！？ おー、それで！？

〇月〇日

友だちの話や発表に「反応（感応）」することから「対話」が始まります。見たこと・聞いたこと（事実）＋思ったこと・考えたこと（根拠）を話すことで、教室に対話的な学びが広がります。



2 「対話」から、協働的・共感的な学級をつくりましょう！

- 異なる考え、別な視点でも、理解して聴こうとする。
- 相手の考えや意見を受けて、つなげて話す。
- 具体的に、客観的に、論理的になるように聴く・訊く。

訊き合う
聴き合う

対話

認め合う
高め合う

- 間違えた答えも失敗も、学びの原動力に。失敗してもいい。
- うなずきながら聴く。アイコンタクトする。拍手する。
- 学びの仲間としてリスペクト。称え合う・認め合う・励まし合う。

「でもね…。」「だってね…」子どもたちが自然に「対話」し始める授業。友だちの発言を共感的に受け入れたり、批判的に思考したりして、学級全体で学習課題の解決に向かっていく授業。間違いや失敗も、「ドンマイ！〇〇さんは、こう考えていたんだよ」とつないでくれる仲間達。先生方の授業力の向上と同時に、学級づくりをベースとした子どもたちの学習力、協働的に学びに向かう力を育てていきましょう。



「南相馬の授業スタイル・授業改善プラン」&「R4・R5 公開モデル授業アーカイブ」

一番の研修は、「よい授業」を観ること。先進地視察研修、校内授業研究会、互見授業など、たくさんの授業を観て、授業力に磨きをかけていきましょう。経年のプランやモデル授業アーカイブは、校内研修や個人研究などでご活用ください。

★ 経年の『授業スタイル』・『授業改善プラン』はこちら



★ 令和4・5年度『公開モデル授業アーカイブ』はこちら

